

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	小川 寛人
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	准教授
在籍年	1 年

教育の責任

獣医学部獣医学科に所属し、主に感染症に関連する講義や実習、研究活動を行っている。主たる教育活動として、以下のような科目を担当している。

動物危機管理学、動物感染症学、微生物学実習、人獣共通感染症学実習、卒業論文など。

教育の理念

実学的な深い知識や技術、深く幅広い教養を身につけて、地域社会ならびに国際社会に貢献できる獣医師を育成したい。そのために、大学での学びは教科書や講義室の中だけにあるのではなく、自らが考えて学びを創成できること、また、理屈ではなく行動した後にその意味を考えることも学生時代だからできる学びであると伝えたい。これらを学生時代に経験する事で、将来獣医師になった際、考えることを放棄しないで自ら困難を切り開く力を会得できるのではないかと感じる。

教育の方法・方針

<講義について>

基礎知識をしっかりと理解し覚えることができるように、講義資料や進行の途中に区切り（一息つける時間）を設けるように心掛けている。事前の資料配付は予習を可能とする一方で、資料の受けとりだけで満足してしまう（やった気になってしまう）ことが危惧される。集中して受講できるように、重要な部分を空欄にするなど資料作成を工夫する。

<実習について>

きれいな図などは教科書やインターネット上にごまんと存在する。単に確認したいだけであればこれらで十分である。現時点で理解すべきは、実習を通して自らが目的的操作を行い、実物を確認すること、そして、生の質感を自分の目や体でしっかりと体感することである。これらを一貫して伝えるように心掛けている。また、気軽に質問できるように実習室を動きながら対話するようにしている。

<グループワークについて>

固定概念にとらわれない広い視野に基づいた発想やコミュニケーション能力を養成するため、スモールグループディスカッションや課題解決型学習（PBL）を取り入れるようにしている。問題発見能力や資料調査力、能動的に問題解決に挑戦する学習習慣を身につける機会を提供したい。

教育の成果

授業アンケート結果において、授業に対する教員の意欲や質問しやすい雰囲気、対応の丁寧さなどが評価された。アンケート内のコメントに関しては特に注視し、次年度以降の授業がより良くなるように心掛けたい。

今後の目標

学生は低学年のうちから獣医師国家試験を意識しすぎているように感じる。獣医師になるためには国家試験に合格しなくてはならないが、大学では獣医師として活躍するために必要な知識や技術をワクワクしながら修得してほしい。この修得度合いを測るのが国家試験の位置付けで

あろう。いま一度、国家試験を意識するのではなく、多くの知識や技術を修得して獣医師として活躍している自分を意識できるような、そして、実際に将来そうなれるような教育を目指したい。そのために、自身の経験や社会情勢から得られる獣医師に関連する情報を織り交ぜながら、実学的な教育に従事したい。

根拠資料

講義資料、授業アンケート